

防災あいずみ

平成30年1月15日発行 第19号

発行元：藍住町総務課危機管理室

電話637-3111

親子防災講座を開催しました！

10月27日、参観日を利用して東小学校で親子防災講座を開催しました。
この講座は東小学校の校区が南海トラフ巨大地震による津波浸水区域となっていることから、防災意識の啓発や防災知識の向上を目的に行いました。

保護者の皆さんは、町担当者から避難所である体育館や校舎の解錠方法や備蓄物資の状況について説明を受けたほか、板野東部消防組合の指導のもと、心肺蘇生法や消火訓練、ロープワークなどを体験しました。

また、5・6年生の児童は、地震体験車で過去の大きな地震を体験したり消火訓練や防災クイズに参加しました。1時間程度の短い講座でしたが、参加者からは有意義な講座だったとの声も聞こえました。



南小学校で防災・避難訓練を開催しました！

10月29日、藍住南小学校で防災・避難訓練を開催しました。当日は台風22号接近のため、当初予定していた屋外での訓練や体験コーナーを中止し、屋内のみでの実施となりましたが、地域住民のほか関係者ら276名が参加しました。

訓練参加者は、自宅から会場(南小学校)まで移動し、危険箇所や所要時間を確認したほか、自衛隊によるカレーの炊き出しや防災クイズ、心肺蘇生法体験などその他様々な体験コーナーに参加しました。

本県においては南海トラフ巨大地震や中央構造線・活断層地震の発生が懸念されています。また、実際の地震は、昼夜・天候問わず発生します。いざという時に備え、防災意識を風化させないためにも防災・避難訓練に参加しましょう。



夏休み防災自由研究入賞者のお知らせ

今年で4回目となった夏休み防災自由研究には、町内の各小学校から35点もの応募がありました。

応募された作品は、津波を想定して事前準備から避難までを実際に行ったものや、災害時におけるトイレの問題、避難経路の危険箇所を点検したものなど、災害が起こった時の課題と対策を様々な視点から考えた優秀な作品がたくさんありました。平成29年度の入賞者は次の皆さんです。

応募ありがとうございました。

賞	学校名	学年	氏名
最優秀賞	南小学校	6	北原花音
優秀賞	北小学校	5	安永奈菜
優秀賞	北小学校	2	安藝虹乃
入選	北小学校	4	森 さくら
入選	北小学校	4	三原由季菜
入選	西小学校	6	南條由芽
入選	東小学校	4	米本宙那

(敬称略)

感震ブレーカーを知っていますか？

感震ブレーカーとは、一定規模以上の強い揺れを感知すると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する装置です。東日本大震災では、本震による火災全111件のうち、原因が特定されたものが108件。そのうち過半数が電気関係の出火による火災でした。地震による電気火災は、地震によって雑誌等の可燃物が散乱し、電気ストーブなどに接触して発火するケースや、家具の転倒により電気コードが損傷し、停電復旧の際にショートして発火するケースなどがあります。

今年7月に、徳島県から公表された中央構造線・活断層地震の被害想定では、藍住町内で火災による建物被害が1,200件、人的被害が220人と多大な被害が想定されています。この予防策としては、住民のみなさん一人ひとりが対策を講じていただく他ありません。この機会にぜひ、感震ブレーカーの設置を検討しましょう。

なお、町では**平成30年4月から感震ブレーカーの設置に対して補助金制度の創設を予定しています**。補助金制度の概要については次号の防災あいずみ第20号(平成30年4月15日発行)や町ホームページ等でお知らせします。

分電盤タイプ(内蔵型)	分電盤タイプ(後付型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
			
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断。	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断。
約5～8万円	約2万円	約5千～2万円	約3千～4千円
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

福祉避難所を募集します！

東日本大震災では、犠牲者の過半数を高齢者が占め、また、障がい者の犠牲者の割合についても、被災住民全体と比較して2倍程度に上ったといわれています。高齢者、障がい者、乳幼児等の要配慮者にとっては、直接の被害だけでなく、生活環境が十分に整備されていない避難所で長く生活することを余儀なくされた結果として、健康を害し最悪の場合死に至るケースさえあり得ます。



このため、大規模災害発生時に、要配慮者が安心して避難生活が送れるよう、設備が整っている民間施設を対象に福祉避難所を募集します。

今回募集する施設は、災害時に避難者を直接受け入れていただくものではなく、町の指定避難所(小中学校等)へ避難してきた要配慮者を町からの依頼により受け入れていただく施設です。

福祉避難所に応募していただいた施設は、町が施設の状況を確認した後、条件に適合していれば「福祉避難所の開設に関する協定」を締結していただきます。

また、協定の締結後は町広報紙、ホームページ等で福祉避難所として指定したことを公表させていただきます。

詳しくは総務課危機管理室までお問い合わせください。

◆ 募集対象施設

- 老人福祉施設(デイサービスセンター、小規模多機能施設、特別養護老人ホーム等)
- 障がい者支援施設等

◆ 指定の条件

- 耐震構造、耐火構造であること
- 浸水想定区域内の施設では基準水位(浸水深さ)以上の高さへ避難できること
- 各種災害(地震、津波、洪水)に対して安全性が確保できること
- 30人以上(60㎡以上)の避難スペースが確保できること

◆ 福祉避難所への避難想定者

福祉避難所の対象者は、障がい者、高齢者、妊産婦、病弱者、傷病者等で、身体等の状況が特別養護老人ホーム又は老人短期入所施設等へ入所するに至らない程度の者、一般の避難所での生活に支障をきたし、何らかの特別な配慮を必要とする者及びその付添者です。



御協力をお願いします。

自主防災組織の活動事例を紹介します

前回に引き続き、町内で活発な取組みをされている自主防災組織の活動を紹介します。まだ自主防災組織を結成されていない地域では、今後の大規模災害等に備えて自主防災組織を結成しましょう。

徳命東・西自治会自主防災会

結成年月日：平成25年4月1日

隊員数：117名



主な活動実績

- 平成25年 非常持ち出し袋の全戸配付
- 平成26年 消火栓、ホース一式整備
- 平成27年 希望者を対象に火災報知機取付補助
- 平成28年 独自基金を使用して消火器を全戸配付
消火資機材点検
- 平成29年 キャリー及びホース格納箱の購入
水消火器放水訓練、心肺蘇生訓練
- その他、2か月に1度定例会を実施している

○自主防災組織を結成したきっかけと、結成してよかったこと

過去の災害に対して危機感を抱き、自治会だけでは非常時に対応が間に合わないという想定から、地域の防災力を高めるために結成されました。

結成後の活動を通して地域の絆が深まり、協力意識が芽生えているようです。具体的には、2か月に1回の定例会や、自治会活動と併せて取り組むことでふれあいを深めることができ、地域で助け合うという意識に繋がっています。

このように、定期的な活動を実施することで、地域住民に共助の意識を浸透させ、防災力の向上が図られているようです。

○自主防災組織運営における課題と解決策

活動の主となるメンバーが高齢者中心となってしまうことが課題として挙げられました。活動参加者全体で見ると60歳以下の参加も年々増えつつあるものの、運営役員は高齢化が進んでしまっているため、若い世代の方々にも積極的に取り組んでもらえるようにしていきたいとのことでした。

共助が行える組織にするためにも、まずは自助意識をしっかりと高めなければなりません。徳命東・西自治会自主防災会では、独自の基金から消火器・非常持ち出し袋の全戸配付や火災報知機取付補助を実施していますが、いざという時に自分たちの身を守るように道具の使用等に関する実践的な講習会を実施していきたいとのことでした。また、今後は各家の生活拠点となる部屋を把握し、有事の際は迅速な救出活動が行えるようにしたいということと、地震による家屋の倒壊に備えるために耐震シェルターの普及をしていきたいということも語っていただきました。

最後に、今回の取材の中で、次のような御意見を頂きましたので、皆さんにも紹介します。

- 洪水により体育館が使用できない状況に備えて、屋上への鍵も自動解錠鍵ボックスに入れてはどうか
- より実践的な避難訓練を実施して欲しい
 - ・津波を想定した避難訓練であれば3階以上まで避難する
 - ・平日に避難訓練をする
 - ・避難後の避難所設営や運営まで想定した訓練をする など

貴重な御意見ありがとうございました。今後の防災対策の参考とさせていただきます。